

## 甲南大学 甲南大学大学院

ホームページ <http://www.konan-u.ac.jp>

### ◎岡本キャンパス

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1

TEL (078) 431-4341 (大代表)

### ◎西宮キャンパス

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町8-33

TEL (0798) 63-5741

### ◎ポートアイランドキャンパス

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20

TEL (078) 303-1457

## 甲南高等学校・中学校

〒659-0096 兵庫県芦屋市山手町31-3

TEL (0797) 31-0551 (代表)

ホームページ <http://www.konan.ed.jp>

## 甲南大学ネットワークキャンパス東京

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12

サピアタワー10F

TEL (03) 6266-9520

ホームページ <http://www.konan-u.ac.jp/tokyo/>

## ウェブサイトによる 「教育情報」の公開について

本学では、平成23年4月1日に施行された「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」に伴い、ウェブサイトにて積極的に「教育情報」を公開しています。甲南大学ホームページの「公開情報」をご覧ください。

発行 平成29年6月

この冊子に関するお問い合わせは、  
以下までお願いいたします。

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1

学校法人甲南学園 総務部総務課

TEL (078) 435-2608

FAX (078) 435-2548

e-mail [sohmu@adm.konan-u.ac.jp](mailto:sohmu@adm.konan-u.ac.jp)

個性を力へ。

# KONAN

## 平成28年度 事業報告書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで



甲南大学、甲南高等学校・中学校を設置する甲南学園は、大正8(1919)年の旧制甲南中学校の開設にさかのぼります。

甲南を支える大きな精神的支柱である創立者の平生鈺三郎先生は、

本校ハ学校教育ノ現状ニ満足セザル有志ノ者共ガ集マツテ、知育偏重ノ弊ヲ避ケ、「人格ノ修養」「健康ノ増進」ヲ第一義トシ、「個性ヲ尊重シテ天賦ノ特性ヲ啓発スベク、知的教育ヲ施サン」トノ主旨ヲ以テ創立イタシマシタ

高等学校第1回卒業式／大正15(1926)年

と述べています。

本学園は、今後も、この気概と品格ある平生精神をもとに、教育・研究の質を高め、本学園の社会的使命を達成することを目指しています。

## はじめに

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

本学園の平成28年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

教育の重要性が切に叫ばれるなか、個性を育むことを旨とする私学教育に向けられる期待・要望がより一層大きくなっています。学びの多様化・能動化に伴う成果の指標化、入学定員の厳格な管理、地域連携、入試改革など、外部評価に応えうる枠組みづくりとともに、教育の質の向上が強く求められております。

こうしたなか、本学園は開学以来一貫して、個性を尊重し学生・生徒の天賦の特性を伸張させる「人物教育の率先」を展開しております。とくに学園創立100周年と、その後の甲南教育新世紀を見据え、「世界に通用する」視野を持つ人物の養成に力を注いでいます。大学では教育施設の整備も図りつつ、入学者数の定員超過率を抑制し、少人数充実教育を実践、ミディアムサイズの総合大学の利点を活かす共通教育改革・グローバル教育の充実など融合的創造に取り組んでいます。高等学校・中学校では十分な学習時間の確保とコース制の導入、グローバル性の発揮など、“正志く 強く 朗らかに”をモットーにきめ細かな教育の充実に取り組んでいます。

これらの成果を踏まえつつ、十分に比較・検討・熟慮の上、諸事業を展開し、資金・資産を最大限有効に活かすことに意を注ぎ、健全な予算編成のもと、100周年へ向けて一層の飛躍を目指してまいります。

皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 甲南学園のあゆみ

個性尊重の理念を掲げて開学。100周年へむけ、その独自の教育を深め、究めようとしています。

平生鈺三郎は、慶応2(1866)年武門に生まれ、東京海上火災保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献、川崎造船所を再建するなど実業界で広く活躍しました。甲南病院の設立など社会事業にも深く関わり、政治においては、広田内閣の文部大臣として義務教育の年限延長、師範教育の改善を強く提唱しました。教育理念として、「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重し、各人の天賦の特性を伸張させる」を掲げ、甲南中学校、さらに7年制の甲南高等学校を創立しました。

大正 7(1918) 財団法人甲南学園  
私立甲南中学校設立認可  
大正 8(1919) 私立甲南中学校開校  
大正12(1923) 7年制甲南高等学校開校  
昭和23(1948) 新制甲南高等学校に移行  
昭和26(1951) 甲南大学設置認可、甲南大学開学、  
文理学部設置  
昭和27(1952) 経済学部増設  
昭和32(1957) 文理学部を文学部と理学部に分離  
昭和35(1960) 法学部・経営学部増設  
昭和38(1963) 甲南高等学校・中学校が岡本から芦屋市に移転  
昭和39(1964) 大学院人文科学研究科、自然科学研究科設置  
昭和40(1965) 大学院社会科学研究科増設  
平成 3(1991) トゥレーヌ甲南学園(フランス甲南学園  
トゥレーヌに校名変更)高等部・中等部を開校

平成13(2001) 理学部を理工学部に変更  
平成14(2002) 経済学部・経営学部をEBA総合コースを開設(平成25年廃止)  
平成15(2003) 先端生命工学研究所(FIBER)設置  
平成16(2004) 大学院法学研究科(法科大学院)増設  
平成18(2006) 大学院ビジネス研究科(会計大学院)増設  
(平成25年会計専門職専攻として社会科学研究科のもとへ移設、  
平成28年廃止)  
平成20(2008) 知能情報学部増設  
平成21(2009) マネジメント創造学部増設(西宮キャンパス新設)  
先端生命工学研究所移設・フロンティアサイエンス学部・同研  
究科増設(ポートアイランドキャンパス新設)  
フランス甲南学園トゥレーヌ中等部閉校  
平成25(2013) フランス甲南学園トゥレーヌ高等部閉校



学校法人甲南学園  
理事長 吉沢 英成



## 甲南学園の構成

設置する学校・研究科等(平成29年3月31日現在)

### 甲南大学・大学院

学部・学科	文学部	■ 日本語日本文学科 ■ 社会学科 ■ 歴史文化学科	■ 英語英米文学科 ■ 人間科学科
	理工学部	■ 物理学科 ■ 機能分子化学科	■ 生物学科
	経済学部	■ 経済学科	
	法学部	■ 法学科	
	経営学部	■ 経営学科	
知能情報学部	■ 知能情報学科		
マネジメント創造学部	■ マネジメント創造学科		
フロンティアサイエンス学部	■ 生命化学科		
大学院	人文科学研究科	修士課程 ■ 日本語日本文学専攻 ■ 英語英米文学専攻 ■ 応用社会学専攻 ■ 人間科学専攻	博士後期課程 ■ 日本語日本文学専攻 ■ 英語英米文学専攻 ■ 応用社会学専攻 ■ 人間科学専攻
	自然科学研究科	■ 物理学専攻 ■ 化学専攻 ■ 生物学専攻 ■ 知能情報専攻	■ 物理学専攻 ■ 生命・機能科学専攻 ■ 知能情報専攻
	社会科学研究科	■ 経済学専攻 ■ 経営学専攻	■ 経営学専攻
	フロンティアサイエンス研究科	■ 生命化学専攻	■ 生命化学専攻

### 専門職 大学院 センター 研究所 図書館

法学研究科	■ 法務専攻(法科大学院)
■ 国際言語文化センター ■ キャリアセンター ■ 先端生命工学研究所 ■ 国際交流センター ■ フロンティア研究推進機構 ■ ビジネス・イノベーション研究所 ■ スポーツ・健康科学教育研究センター ■ 図書館 ■ 教育学習支援センター	■ カウンセリングセンター ■ 総合研究所 ■ 共通教育センター ■ 教職教育センター ■ 地域連携センター ■ サイバーライブラリ ■ 人間科学研究所 ■ 統合ニューロバイオロジー研究所

### 甲南高等学校・中学校



## CONTENTS

学校法人甲南学園／平成28年度事業報告書

はじめに ..... 1  
■ 甲南学園のあゆみ  
■ 甲南学園の構成

平成28年度の主な取組 ..... 3

### Highlight 2016

01 甲南学園創立100周年記念事業の推進 ..... 3  
02 甲南大学の教育改革 ..... 5  
03 高等学校・中学校 ..... 6  
04 戦略事業の展開 ..... 7

I 事業の概要 ..... 8  
■ 大学・大学院 ..... 8  
■ 高等学校・中学校 ..... 11  
■ 法人 ..... 12

II 財務の概要 ..... 13

■ 平成28年度決算の概要  
■ 資金収支決算の概要  
■ 資金収支計算書(学園総括)  
■ 活動区分資金収支計算書(学園総括)  
■ 繰越支払資金の流れ  
■ 事業活動収支決算の概要  
■ 事業活動収支決算書・構成比率(学園総括)  
■ 事業活動収支(旧:消費収支)決算の推移(学園総括)  
■ 平成26年度~28年度決算の推移  
■ 主な施設・設備の整備状況(学園全体)  
■ 貸借対照表  
■ 財務状況の推移(学園総括)  
■ 財務比率の推移(学園総括)

III 法人の概要 ..... 21

■ 名称  
■ 法人設立の年月日  
■ 設置学校  
■ 役員  
■ 土地と建物

### 大学・大学院・高等学校・ 中学校基本データ

■ 学位授与  
■ 留学者数  
■ 入学試験状況  
■ 大学(学部学生)の就職状況  
■ 学生・生徒数  
■ 卒業生累計数  
■ 専任教職員数  
■ 事務組織図

## 平成28年度の主な取組

### 01 甲南学園創立100周年記念事業の推進

#### ■ 甲南大学白川台キャンパス（愛称：コスモスキャンパス）の開設

平成28年4月、神戸市須磨区東白川台に「甲南大学白川台キャンパス」を開設しました。愛称は「コスモスキャンパス」。須磨区の花である「コスモス」にちなみ、学生の無限の可能性を「宇宙（Cosmos）」で表現しています。岡本キャンパスからスクールバスで40分弱の距離にあり、学園創立100周年記念白川台セミナーハウス「II（アイル）」とグラウンド、野外活動施設で構成されています。セミナーハウスは講義室やセミナー室、体育館、100名を超える収容規模の食堂と140名収容の宿泊施設を備え、ゼミ合宿や宿泊を伴う多様な活動への対応が可能となっています。平成29年3月には2期工事も竣工し、内部が一新された体育館、パーベキュー施設に加え、キャンパス内の山林を活用した散策路やピオトープが加わっています。



外観

コスモスキャンパスは開設以来、複数のゼミやクラブ活動の合宿の予約が入る人気ぶりで、ゼミ間の交流も生まれています。1年次の「共通基礎演習」で行うグループワークは学生・教員からも好評で、日常とは異なる環境に身を置いて交流を深めることによって、教育活動が活性化しています。



体育館



セミナー室

また、コスモスキャンパスは、地域貢献や地域連携の拠点としても活用しています。平成28年度には、法科大学院や地域連携センターが主体となり、「振り込め詐欺」「身近な相続問題」等のテーマで地域の方々に向けた講座や公開講演会を実施しました。

#### ■ アイコモンズ iCommons Projectの始動

岡本キャンパスの福利厚生ゾーンを再開発し、人物教育のクオリティ・リーダーを目指す甲南新世紀ビジョンを実現するための新校舎「KONAN INFINITY COMMONS（愛称：iCommons）」（平成29年9月竣工予定）の建設が順調に進んでいます。iCommonsのコンセプトは「融合」。「ミディアムサイズの総合大学」という甲南大学の長を活かすべく、人文系・社会系・自然系の枠を超えて学生や教職員が融合し、各クラブが相互に触発されて創造力へとつながります。iCommonsが、人と人をつなぐ「キャンパスの結節点」「キャンパスの融合」スペースとなることを目指しています。

iCommonsの活用・運用方法を検討する過程では、学生、教職員の声を幅広く集めています。その取組の一つが、学生にコンセプトの共通理解を図り、施設の活用法をともに考える「iSessions」です。平成28年7月に白川台キャンパスで約100名の学生と職員が「iSessions」合宿を行い、コミュニケーションを開始。以来、意見交換と調整を続けており、オープン時には多くの学生がiCommonsのコンセプトをよく理解し、積極的な利用ができることを目標としています。

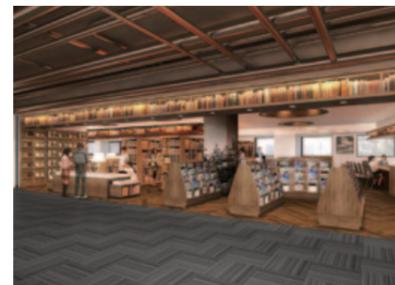
また、教員は長坂学長のもと、iCommons活用法に関するタスクフォースを設けているほか、職員も若手を中心としたタスクフォースを作り、積極的な議論を継続しています。iCommonsはこれまでにないオープンな複合施設であることから、ゼミ発表のほか、高大連携や研究発表などに加え、これまでの学生サービスのあり方を根本的に変えるような多様なアイデアが集まっています。



「iSessions」



外観（東側より）



ブックカフェ

#### ■ 学園創立100周年記念事業募金

平成27年10月から開始された学園創立100周年記念事業募金（平成32年9月30日まで）も1年6か月が経過しました。平成28年度も多方面に向けて募金依頼を実施し、卒業生、保護者をはじめ、同窓会、法人・団体の皆様からの深いご理解のもと、募金目標額20億円に対し、平成28年度末で約8億6千万円のご芳志を賜りました。また新たな取組として、三井住友VISAカードと連携し、利用手数料の一部が創立100周年記念事業などに活用される「甲南大学カード」を作成しました。今後も甲南を「世界に通用する学園」として誇れるもの（Respectable KONAN of the World）」にすべく、継続的な働きかけを図ります。

##### ● 募金対象事業

- ①甲南新世紀教育の展開『校友会館等再開発を新しい教育機能で包むKONAN INFINITY COMMONS建設、“顔がわかる”少人数教育・キャリア創生共通教育・融合型グローバル教育などKONAN Higher Quality教育の確立』
- ②甲南大学白川台キャンパス（愛称：コスモスキャンパス）セミナー・スポーツ施設拡充事業
- ③高等学校・中学校 100周年記念グローバル教育推進・教育環境整備事業
- ④100周年記念“わがくるま 星につなぐ” 甲南の星 奨学金給付事業

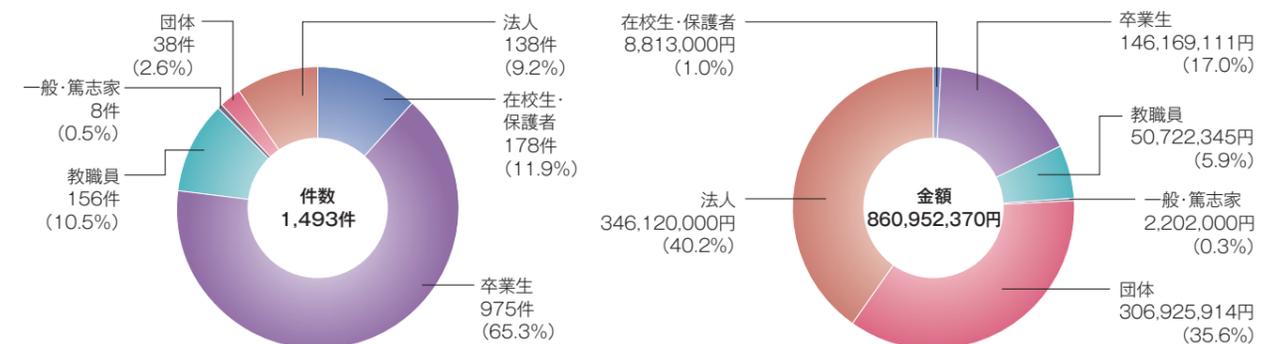
● 事業規模 100億円

● 募金目標額 20億円

● 募金期間 平成27年10月1日～平成32年9月30日（5年間）

#### ■ 100周年記念事業募金申込状況（平成29年3月31日現在）

	件数（累計）	件数比率	金額（累計：円）	金額比率
在校生・保護者	178	11.9%	8,813,000	1.0%
卒業生	975	65.3%	146,169,111	17.0%
教職員	156	10.5%	50,722,345	5.9%
一般・篤志家	8	0.5%	2,202,000	0.3%
団体	38	2.6%	306,925,914	35.6%
法人	138	9.2%	346,120,000	40.2%
合計	1,493	100.0%	860,952,370	100.0%



## 02 甲南大学の教育改革

### ■ 新世紀ビジョンの策定と教育改革の推進

甲南教育の新たな100周年に向け、学生個々の天賦の才能を引き出し、人物重視の質の高い教育を提供し、学生、保護者、社会の期待に応えていくため、「KONAN U.VISION 2020－甲南新世紀ビジョン－」を以下のとおり定めました。このビジョンのもと、教学新機軸の推進とKONANプレミア・プロジェクトとして展開される全学横断的な取組の展開を中心に、伝統のうえに弛まぬ革新を重ね、「ミディアムサイズの総合大学」としての特色を最大限に発揮して、「人物教育の甲南」と評される大学となるよう全学挙げて取り組んでいきます。



### 【甲南新世紀ビジョン】

#### (1) 圧倒的な教育力により、人物教育のクオリティ・リーダーと呼ばれる大学になる。

「融合力を身につけ、個性を力にできる才幹」を育てる大学であることを明確に示し、「人物教育のクオリティ・リーダー」というポジションを確固たるものにする。

#### (2) 世界に通じる特色ある研究力が教育に浸み出し、地域と連携して発展していることが社会に評価される大学になる。

特色ある研究成果の還元、人物教育、社会貢献を通じて「神戸には甲南大学」という評価を得て、地域とつながり、地域とともに世界に向けて発信する成果が評価される大学になる。

#### (3) 融合力を発揮し、様々な環境変化に対応できる力、持続的に発展できる力を備えた大学になる。

甲南の融合力を発揮できる組織能力を確立し、教育基盤整備に対して戦略的投資が継続される体制を構築することで、今後の環境変化に対応しつつ持続的発展が可能な大学となる。

### ■ サイエンス・ラーニング commons の整備

理工系分野のアクティブ・ラーニングを強力にサポートする施設として9月28日、岡本キャンパス7号館1階にサイエンス・ラーニング commons (SLC) を開設しました。当日は、オープニングセレモニーのあと、理工学部教員3名によるショートレクチャーを開催しました。

SLCでは、融合サイエンス・リベラルアーツ教育の拠点として、理工学部3学科の融合力で実践的な科学する力を養います。具体的には、充実した演習実験設備を活用して専門教育科目だけでなく、共通基礎教育科目などで文系学生にも演習実験を行っているほか、従来は研究室内で実施していたセミナーや学会発表の練習などを、SLCを活用してオープンな形で行っています。また、授業・セミナー等で使用されていない時には、多くの学生がSLCでのランチやティータイムを楽しんでいます。

平成28年秋には、SLCランチョンセミナーとして、『甲南の教員が解説するNobel Prize 2016』を3回シリーズで開催しました。第1回は、医学生理学賞『オートファジーのしくみの発見』（解説：武田鋼二郎 理工学部講師、西村いくこ 理工学部教授）。第2回は、化学賞『分子マシンの設計と合成』（解説：片桐幸輔 理工学部助教）。第3回は、物理学賞『トポロジカル相転移および物質のトポロジカル相の理論的発見』（解説：山崎篤志 理工学部教授）。



ショートレクチャー（長坂学長とともに）

### ■ 地域連携センターの開設

平成28年4月、地域連携・ボランティアに関わる拠点として、岡本キャンパス12号館1階に新たな「地域連携センター」を設置しました（フロンティア研究推進機構から独立）。このセンターは、学生のボランティア・地域連携活動を推進すること、及び大学の地域連携活動を推進することをミッションとして、積極的な活動を展開しています。

平成28年度には、①神戸市「包括連携に関する協定書」（4月19日）、②堺市「基本協定書（包括的な連携協力について）」（4月26日）、③株式会社神戸新聞社「連携に関する協定書」（6月25日）、④甲南女子大学「地域創生に係る連携協力に関する協定書」（10月17日）、⑤兵庫県「就職支援に関する協定書」（2月21日）、⑥広島県「就職支援に関する協定書」（3月21日）など、多くの自治体や企業と連携協力に関する包括的な協定を締結したほか、加古川市、三原市、和歌山市、兵庫県商工会連合会などとも連携を進めています。

また、地元の岡本商店街振興組合とも密に連携し、教育懇談会やオープンキャンパスには飲食ブースを出展、小冊子『岡本散歩 甲南大学特別号』を発行していただいたほか、梅の名所である岡本にちなんだ「梅アイス・梅紅茶」を共同開発しました。

さらに、学生の地域連携活動においては、①『神戸の魅力発信ブック』の制作・発行、②「堺×甲南“海でつながる”学生研究プロジェクト」実施、③「加古川市内の企業課題解決プロジェクト」参加、④神戸新聞社「学生編集会議」参加、⑤神戸ファッションウィーク「ヨガプロジェクト」実施などの様々なプロジェクトを強力に支援しました。



神戸新聞社との協定締結記念シンポジウム「神戸からの発信 多様性を生かした地域創生」



学生によるボランティア活動

一方、ボランティア活動においては「熊本地震被災地支援ボランティア」「東日本大震災復興支援ボランティア」への参加学生を全面的に支援したほか、大学コンソーシアムひょうご神戸主催「全国学生ボランティア交流フォーラムIN 神戸」（後援：文部科学省、復興庁など）を甲南大学平生記念セミナーハウスで開催しました。

なお、全学的な共通教育改革の一環として開設されたキャリア創生共通教育のうち、「ボランティア・地域連携科目群」の授業「実践ボランティア」については、企画から実施に至るまで、地域連携センターが全面的に支援しています。

## 03 高等学校・中学校

「フロントランナーコース」「アドバンスコース」は新設から3年目を迎え、「フロントランナーコース」では中学2年～中学3年生にかけて理系の素養や国際舞台で通用する力を養うことを目的に「サイエンスラボ」「グローバルラボ」を実施、「アドバンスコース」では中学3年生から「グローバルファウンデーション（国際教養プログラム）」が設けられ、中学3年～高校3年生までの4年間のグローバル教育の流れができました。また、昨年度に引き続き、各界の第一線で活躍されている著名人を招聘した講演会「ソフィア」による人物教育を実施。国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）シニアフェロー、宇宙科学研究所宇宙飛行学系教



講演会「ソフィア」（川口淳一郎氏）



包括協定を結んだ久元喜造神戸市長（左）と長坂悦敬学長

## Highlight 2016

授の川口淳一郎氏、NPO法人日本紛争予防センター理事長の瀬谷ルミ子氏の仕事に対する思いや人生観などについて語っていただきました。

施設設備においては、学園創立100周年の記念事業の一環として「スポーツ屋内練習場」が10月に旧体育館の跡地に竣工。同施設はゴルフ練習場と野球練習場（多目的練習場）からなり、雨天時も利用できる運動施設です。健康の増進を重んじる平生精神を継承する建物として、徳・体・知のバランスのとれた人物を育成する教育理念を実現し、生徒がスポーツを通して豊かな人間性を身につける場として利用を開始しました。



スポーツ屋内練習場（ゴルフ練習場）



スポーツ屋内練習場（野球/多目的練習場）

## 04 戦略事業の展開

## ■ 先端生命科学研究所（FIBER）の第Ⅱ期プロジェクト3年目の研究推進

平成26年度に開始した第Ⅱ期プロジェクトでは、「FIBER第Ⅱ期計画」に基づく研究、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」（平成26年度から5年間）に採択された研究「核酸の非標準構造を標的とした細胞応答の化学的制御技術の構築と先制核酸医学への展開」を推進するとともに、国内外の機関と連携した研究を推進しました。

この研究成果は、新聞紙面にも多く取り上げられ、ドイツやイギリスでの世界的な学術雑誌に掲載されたとともに、国際会議やシンポジウムで受賞するなど、国外・国内で高く評価されました。

また、研究成果の還元として、中学生を対象とした実験教室「新しいDNAセンサーをつくって遺伝子のヒミツを探ろう（ひらめき☆ときめきサイエンス）」をはじめ、女性研究者にフォーカスした一般公開講演会や中学生・高校生等、幅広い世代を対象にしたイベントを多数開催しました。

平成28年1月にスロベニア国立化学研究所（NIC）・スロベニア国立NMRセンター（SLONMR）との間で締結した学術交流協定に基づき、また、SLONMRとは日本学術振興会における二国間共同研究事業の推進のため、先制核酸医学をテーマにした共同研究を展開してきました。更に、国際シンポジウム「FIBER国際核酸サミット2016（FIBER International Summit for Nucleic Acids 2016：FISNA 2016）」を開催しました。核酸化学研究を展開する国内外の第一線の研究者が一堂に会し、理学、工学及び薬学という異なる専門領域を著名な研究者が、最先端の核酸研究の講演を行い、「近未来の核酸化学」に関する分野横断的な議論を交わす機会となりました。

## ■ 法科大学院（ロースクール）の第3期プロジェクト3年目の展開

予備試験制度が定着し、ロースクールの制度環境が厳しさを増すなか、11回目となる平成28年司法試験に6名が合格。司法試験の合格者累計は120名となりました。平成28年度後期からは、甲南大学西宮キャンパスにおいて、岡本キャンパスからネット回線で配信する講義を受講できる「西宮教室」を開設。昼夜開講、春秋入学制度も実施して、社会人にも門戸を開くなど特徴ある様々な取組を実践中。これらの取組は文部科学省による補助金算定のための審査でも高い評価を得ており、その内容は全国紙でも報道され、甲南ロースクールはその名を全国に定着させています。



実験教室（ひらめき☆ときめきサイエンス）



FIBER国際核酸サミット2016

## I 事業の概要

## 大学・大学院

## 1 教育

## (1) “顔がわかる” 少人数教育及びアクティブ・ラーニングの推進

少人数教育を推進するため、1年次生の講義科目の受講生150名以下を達成し、2年次生の講義科目においても一部を除き受講生200名以下を実現。また、個性を力にできる才幹を育むために、学生の学びや活動を記録・可視化し、フィードバックする「学修ポートフォリオ」の開発・活用準備を進めるとともに、成績評価に表れにくい学生の力を評価認定する「KONANサーティフィケート」制度の充実を図り、「グローバル」、「ライブラリ」、「ボランティア」、「スポーツ」の4つのカテゴリーで32名の学生を認定。さらに、アクティブ・ラーニングの推進を支援するために、ラーニング・アシスタント（LA）やライティング・サポートを本格的に導入。

## (2) FD活動等教育改革への取組と教育力強化の支援・促進

シラバス作成支援システムの構築、授業アンケート、教員間の授業参観、公開講義等を実施。

## (3) 融合型グローバル教育の推進

「留学受け入れ」、「留学送り出し」及び「学内国際交流」の充実、新規に導入した認定留学制度を周知、定着化。グローバルゾーン“Porte”の活用促進。正規外国人留学生の募集開始。英語でビジネススキルを学ぶBE（ビジネス・イングリッシュ）プロジェクトの対象学部を拡大。

## (4) 共通教育改革の推進

共通教育センターに教員会議を設置し、教員組織を充実。初年次から学部での垣根を越えて大学での学びへの円滑な導入を図る「共通基礎演習」、社会で活用できる力を養成し、学生のキャリア形成に活かすことができる

「キャリア創生共通科目」を開設。学部教育と連携した体系的なキャリア教育を推進し、教育効果を上げるためにクラス数を見直し。

## (5) 教員養成の理念に則した教職課程の運営と全学的な教職指導の体制構築

教育職員養成課程カリキュラム委員会を中心とした体制整備、教職課程カリキュラムの見直し、センター教員と教職指導員による教科別指導体制の整備、面接対策講座と外部機関による講座・模擬試験の実施。

## (6) 健康・体力づくりの涵養

基礎体育学演習での体力テストの回数と受検可能年次の拡大、各自で同データが利用できるシステムの構築、学生のニーズにあった実技種目の実践、日本体育協会のスポーツリーダー資格が取得可能なスポーツ健康科学関連科目を新設。

## (7) スポーツ推薦入学者への教育支援

全学的な連携による、スポーツ推薦入学者を対象にした基礎体育学演習特別クラスの編成や、スポーツ活動と学生生活を自らマネジメントする力を身につけるための特別カリキュラムを実施。スポーツ推薦入学者の個性伸張を目的とした、学生部・スポーツ強化支援室との定期的な面談を実施。

## (8) 教育改革の基盤整備、内部質保証システムの構築

「卒業認定・学位授与の方針」（DP）、「教育課程編成・実施の方針」（CP）、「入学者受入れの方針」（AP）の3つの方針の全般的な見直し及びカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー整備の実施と公表。私立大学等改革総合支援事業タイプ1（教育の質的転換）及びタイプ3（産業界・他大学との連携）選定。平成25年度の認証評価（結果は適合）で受けた指摘事項への「改善報告書」提出準備、第3期認証評価に向けた自律的な内部質保証を継続的、安定的に行い得る組織体制の整備、教学アドバイザー・ボードの活動を推進。フロンティアサイエンス学部、経済学部、法学部の収容定員変更。理工学部生物学科学芸員課程開設。

## 2 研究

## (1) 学内の各種研究助成による研究支援

「平生太郎基金」、「甲南学園教育・研究基金」等を活用した研究、出版、外国人研究者の招聘等事業への助成。

## ① 平生太郎基金科学研究奨励助成

申請者	研究課題	研究助成期間	助成金額（千円）
杉本 直己 (先端生命科学研究所教授) (生命分子化学)	甲南DNAドックによる疾患リスクの革新的早期診断システムの構築	平成25年4月1日 ～ 平成30年3月31日 (5年間)	15,000 (期間5年/ 総額約1億円)
秋宗 秀俊 (理工学部教授) (物理学)	超新星爆発と核物質	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日	9,000
久原 篤 (理工学部准教授) (生物学)	動物の温度適応の分子神経メカニズム	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日	5,000
木本 篤志 (理工学部准教授) (機能分子化学)	メタロ有機エレクトロニック材料群の創製	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日	3,000
平成28年度助成金額合計			32,000

※平生太郎基金科学研究奨励助成…学園創立者平生三郎のご子息、太郎氏のご令室である故平生愛子様から遺贈を受けた財産で、科学研究（医学を含む）を奨励することを目的とした基金。平成6年度より開始された学園の研究奨励助成制度。

## ② 平生記念人文・社会科学研究奨励助成

申請者	研究課題	研究助成期間	助成金額（千円）
富樫 公一 (文学部教授) (人間科学)	トラウマ体験者がトラウマの不条理さを人生の中に組織するプロセスに関する精神的考察	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日	600
平成28年度助成金額合計			600

※平生記念人文・社会科学研究奨励助成…平生太郎基金の遺贈者の精神に喚起された甲南学園が、学園の資金で人文・社会科学系分野の研究を奨励する助成制度。

# I 事業の概要

## ③伊藤忠兵衛基金出版助成

申請者	著書名	助成金額 (千円)
足立 泰美 (経済学部准教授)	雇用と結婚・出産・子育て支援の経済学	1,350
古川 治 (教職教育センター 特任教授)	ブルームと梶田理論に学ぶ	1,050

※昭和51年、第3代・第5代理事長伊藤忠兵衛の遺言により遺贈を受けた財産で、学術研究の出版を助成することを目的とした基金。その後、昭和57年にその他の特定基金として統合し、甲南学園教育・研究基金となり、同時に国際交流助成制度を整備した。

## ④国際交流助成

外国人研究者招聘及び学生の海外派遣事業に12件、合計912,451円を助成。

## ⑤総合研究所共同研究

学術の進歩に寄与することを目的として、昭和59年に設置された総合研究所のもと、人文・社会・自然科学の諸分野にわたる総合的な共同研究6件に対し、研究費を助成。

## (2)私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の展開

平成25年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された2件の研究、①「環境応答を司る細胞ネットワークの機能発現の分子細胞メカニズムの解明」(統合ニューロバイオロジー研究所 期間：平成25年度から5年間)、②「核酸の非標準構造を標的とした細胞応答の化学的制御技術の構築と先制核酸医学への展開」(先端生命工学研究所 期間：平成26年度から5年間)を推進。

## (3)私立大学等経常費補助金特別補助(大学間連携等共同研究)による共同研究の実施

理工学部と知能情報学部が私立大学等経常費補助金特別補助(大学間連携等共同研究)を申請。12件(新規3件、継続9件)の共同研究を推進。

## (4)科学研究費助成の採択、研究支援体制の強化

文部科学省、日本学術振興会による平成28年度科学研究費助成事業に採択された研究課題は101件(新規22件、継続等79件、転入者含む)、新規採択率26%。日本学術振興会二国間交流事業や科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業等の公的研究費、公益財団法人ひょうご科学技術協会をはじめとした各種財団の研究助成等にも多くの研究課題が採択。

## (5)研究支援の強化、コンプライアンスへの対応

各種競争的研究資金の申請から管理・執行までの一元的な支援体制を強化、科研費関連説明会を開催、各種助成金情報の定期的な発信、産官学連携コーディネーターとの連携等による研究費獲得に向けた積極的な取組を推進。

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に対応した体制を整備、コンプライアンス教育、研究倫理教育を推進。研究倫理教育を対象者全員に実施するとともに、学部学生のための「研究倫理ガイド」を作成し、全学周知。

## (6)知的財産の活用促進

本学教員の研究シーズ情報を積極的に発信し、東京地区でも展開。「イノベーション・ジャパン 2016～大学見本市&ピ

ジネスマッチング～」[JSTオープンイノベーションフェア WEST2016]、その他産官学連携に有益な各種展示会や新技術説明会等へ参画出展。

## 3 学生支援活動

### (1)学生生活の支援

学生マナーアップを推進、学内奨学金制度を充実、甲南スカラシップ倶楽部を拡充、学生の健康保持・増進、学生生活の改善・充実及び課外活動の活性化に向けた支援。障がい学生対応及び支援の拡充。

### ●「父母の会・学生GP」採択一覧

代表者学部	テーマ	取組金額
文学部	甲南大学日本語教室「あおぞら」	120,000円
経済学部	甲南スポーツ応援ツアー	499,860円
法学部	北米の柔道教育に対する意識とその指導法	500,000円
経営学部	第25回経営学合同ゼミナール合宿	402,000円

### (2)キャリア形成・就職支援

キャリアカウンセラーの配置、体系だった筆記試験対策の強化、OB・OG懇談会、学内合同企業説明会等の実施、学生の特性や意識、ニーズ等個々の状況に応じたフォローアップを実施。また、公務員合格者との懇談会、公務員業務研究セミナー、業務・採用説明会等、公務員志望者への対策にも注力。これら学生一人ひとりの個性を大切にす親身なサポートと質の高い進路支援の推進、進路満足度の向上に向けた取組により、平成28年度は就職率98.2%を達成。

### (3)保護者との関係強化

「教育懇談会」において、大学概要説明、キャリアセンター講演会、各学部・学科紹介、各種個別相談等を実施。(岡本キャンパス、高松市、広島市、名古屋市各1回、参加者合計1,188名)

## 4 社会連携・貢献活動

### (1)地域連携・貢献活動の推進

ひがしなだチャイルドフェスティバル(神戸市東灘区社会福祉協議会主催)への協力、岡本一斉クリーン作戦(岡本商店街振興組合等との連携)の実施、神戸市東灘区役所や御影クラッセとの地域連携協定に基づく各種活動を推進、学内博物館実習施設「ギャラリー・パンセ」での展示発表、六甲アイランド総合体育施設を活用したイベント、図書館・サイバーライ

ブラリの地域利用者の対象地域を西宮市・芦屋市・神戸市に拡大し、また高校生にも開放。

### (2)教員免許状更新講習の開催

小学校・中学校・高等学校の教員等を対象に、教職教育センター、文学部、理工学部、知能情報学部、スポーツ・健康科学教育研究センターにて15講習を開講。延べ476名が受講。



展示実習「欠片の復元力～三聖病院の余材から～」(ギャラリー・パンセ)

### (3)産官学連携の推進

本学と関わりのある産業界、官公庁とのネットワーク強化、企業との連携協定に基づく各種活動を活性化。

実績：受託研究21件/68,227千円、共同研究35件/28,792千円、奨学寄附金27件/37,863千円

### (4)自治体連携・大学間連携の推進

グランフロント大阪ナレッジキャピタルでの、2016「大学都市KOBE!発信プロジェクト」に継続参加、「大学コンソーシアムひょうご神戸」加盟大学との相互交流の活性化、「西宮市大学交流協議会」の大学共通単位講座や市民対象講座等へ講師を派遣。

### (5)公開講座・生涯学習・スポーツ振興の支援

公開講座、「言語と文化」講座、KONANスポーツクラブのほか、ネットワークキャンパス東京を含む各キャンパスにて様々な公開イベントを開催。日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス」の一環として「ミクロの忍術使い『細胞』の秘密をさぐる(統合ニューロバイオロジー研究所)」や「新しいDNAセンサーをつくって遺伝子のヒミツを探ろう(先端生命工学研究所)」を開催。

## 5 環境整備

### (1)安心安全、省エネ型キャンパスづくりの推進

岡本キャンパス7号館外壁等改修・サイエンスラーニングコモング設置工事、第1駐輪場整備工事、講義室照明LED化工事を実施。

### (2)情報インフラ整備の推進

無線LAN環境整備(第3期)、図書館WebサービスのICT環境適応化、各学部・センターのポータルサイトを充実。

## 6 学生募集・入学試験に係る活動

### (1)高大接続及び大学の情報発信力の強化

「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体的改革について」(平成26年12月22日中教審答申)を踏まえ、本学における高大接続の確立に向けて入試事務室を入試センターへ改組したほか、学長室に高大接続推進担当を配置。また、教学新機軸や教育改革アクションプラン等、大学の各種取組の状況を積極的に情報発信し、ステークホルダーや社会に対して本学の特色・魅力をアピール。データに基づき本学の姿や取組状況を表す「KONAN DATA BOOK」の発行や高校訪問活動の拡充、オープンキャンパスのプログラム改善・充実、合格対策セミナーと保護者対象説明会の開催、高校教員対象説明会と高校・予備校訪問の強化、ターゲットにあわせた発信情報の充実化と情報発信力の強化、「育成型」入試の実現を目指した広報を展開。

### (2)入試制度改革の推進、外国人留学生(学部正規生)入学・編入学試験の実施

公募制推薦入試を全学部で実施。外部英語試験活用型入試の導入、文系学部2教科型入試の実施、理工学部全学科で2教

科判定方式を実施、外国人留学生入試を実施。

### (3)甲南高等学校との連携・接続の推進

推薦入学制度に基づく入学者の受入。各学部の学びと教育内容の魅力をより強く訴求する模擬講義を中心としたイベント「KONAN DAY」を実施。

### (4)協定校・指定校との連携・接続の推進

協定校・指定校等重点校との関係強化に向けたコミュニケーションの充実と制度の整備。

## 7 課外活動

### (1)各種助成金の支給

スポーツ強化支援「強化指定団体制度」に基づく、強化指定団体(11団体)を対象とした「重点強化助成」の助成額を査定、交付。その他体育会クラブを対象とした「活性化助成」「振興助成」による指導者招聘のための助成金を交付。

### (2)各種イベントの実施

体育会、文化会における各種キャンプの実施支援。指導者・学生を対象としたスポーツ安全講習会の実施。スポーツ応援ツアーの実施。

### (3)主な活動成果(金甲賞 受賞団体)

※金甲賞は甲南大学父母の会創立40周年を記念し、学生の課外活動を活性化することを目的として平成6年に設けられた表彰制度。

### 体育会ライフル射撃部

- ・第71回国民体育大会ライフル射撃競技個人第6位
- ・第63回全日本ライフル射撃選手権大会(50mライフル伏射60発)個人第5位
- ・第63回全日本ライフル射撃選手権大会(50mライフル3姿勢120発)個人第7位

### 体育会弓道部

- ・兵庫県学生選手権大会(男子個人、女子個人・団体)優勝
- ・関西学生弓道選手権大会(女子個人・団体)優勝
- ・全国大学弓道選抜大会(女子団体)準優勝

### 体育会硬式庭球部

- ・大韓民国 第97回 全国体育大会(女子シングルス、女子ダブルス)優勝



### 体育会自動車部

- ・平成28年度全日本学生ダートライアル選手権大会(団体)第4位



### 体育会陸上競技部(女子)

- ・国別対抗ニトロ陸上競技大会 日本代表1名輩出
- ・日本選手権リレー4×100m 第3位

# I 事業の概要

## 高等学校・中学校

### 1 教育

#### 平生精神をバックボーンとする甲南一貫教育の実現

- ・フロントランナーコースの中2生、中3生を対象とした「サイエンスラボ」ではウズラ胚の観察やロケットの打ち上げ実験を、また「グローバルラボ」では平和や環境保護活動を行う外部団体から講師を招聘してワークショップを実施。
- ・キャリアリサーチの一環として、高一生が卒業生の経営されている神戸酒心館、ウエシマコーヒーフーズを訪問。
- ・中3生を対象として、社会で活躍する卒業生を招聘し、仕事のこと、中高時代に学んだことで社会に出てから役立ったこと、各々の甲南時代等を語っていただく「OBワークショップ」を実施。
- ・甲南大学の教員のサポートのもと、大学の本格的な設備で行う実験や、臨海学習による自然の中での実習等を通して科学的好奇心を高め、大学での専門的な学びにつなげる「理科特別実験」を実施。また「特色ある科目」として法学、経済学、心理学、情報学等、大学の専門科目の入門を学ぶ事業を実施し、大学入学後の基礎的素養を育成。
- ・環境学習として甲南小学校、甲南女子高等学校・中学校、甲南大学・高等学校・中学校の三学園で田植えや除草活動等を実施。三学園の連携を強化。

### 2 学習活動・学校生活の支援

#### 学習環境の整備、学力の向上、徳育の強化

- ・ICT教育の推進を目的として、授業用のiPad49台を配備。
- ・学習管理システム「レナシティ」に自宅学習用の教材をアップロードし、生徒の家庭学習を促進。
- ・学習成果物を蓄積したうえで多面的評価ができるeポートフォリオシステム「まなBOX」を導入。「まなBOX」で学習成果物・評価等を一元管理することで、効果的な学びの振り返りを可能とし、家庭学習環境をより一層強化。
- ・ネイティブ教員による指導のもと「English Day」を実施し、中1生はチャンツ、中2生は英語劇を披露。また、中1生の希望者を対象に、六甲山YMCAにて「English Camp」を開催。

### 3 グローバル・スタディ・プログラムの充実

#### 国際コミュニケーション力の向上

- ・真の国際人の育成を目的として、37名の生徒を、カナダ、ニュージーランド、イギリス、アメリカ、オーストラリアへ海外留学派遣。
- ・グローバル・スタディ・プログラムの一環として、17名がベトナムへの短期スタディツアーに参加し、ソーシャルビジネスのあり方や平和について学習。
- ・グローバル・ファウンデーションの一環として、27名がオーストラリアでの夏期語学研修に参加。現地語学学校での英語クラスを受講したほか、アボリジナルカルチャー体験等を通じて異文化を学習。また、アドバンストコースの中3生全員を対象に、ヤングアメリカンズによる音楽を通じた教育ワークショップ「ミュージックアウトリーチ」を実施。

### 4 環境整備

- ・再開発事業に係る工事の実施－ゴルフ練習場・野球練習場（多目的練習場）・駐車場が10月に竣工。
- ・教育環境の整備－大教室AV設備等を更新。

### 5 進路状況

生徒一人ひとりの適性や個性に応じた進路選択に向け、きめ細やかな指導を実施。内部推薦等で約半数が甲南大学へ進学したほか、東京大学、京都大学、大阪大学等の国公立大学、首都圏・関西等の医歯薬系を含めた私立大学に加え、海外の大学へも進学。

### 6 生徒募集・入学試験に係る活動

#### 甲南教育の魅力を校外に伝える取組

教育情報誌等広告媒体を積極的に活用したほか、受験生・保護者・塾を対象とした学内外での説明会を実施。

### 7 課外活動

#### 主な活動成果

##### <高等学校>

- アーチェリー部：国体出場 全国高等学校総合体育大会 団体5位 全国高等学校選抜大会出場
- 弓道部：兵庫県総体 個人・団体 優勝 インターハイ出場
- ゴルフ部：関西高等学校ゴルフ対抗戦 団体9位 関西高等学校ゴルフ選手権大会 個人21位 全国高等学校ゴルフ選手権大会出場
- 水泳部：近畿私立水泳競技大会 100m平泳ぎ 優勝 100mバタフライ 優勝
- テニス部：全国私立高等学校テニス大会 ベスト4
- 馬術部：兵庫県高等学校総合体育大会 馬術競技 団体戦優勝 全日本ジュニア障害馬術大会出場
- 将棋部：兵庫県高校将棋選手権 A級個人戦 優勝 全国総合文化祭広島大会出場 全国高校新人大会東京大会 ベスト32
- 書道部：高野山競書大会 館長賞
- ブラスアンサンブル部：ジャパンスチューデントジャズフェスティバル (8月) 団体 ベストサウンド賞 (全国大会6位) 個人 ナイスプレーヤー賞 第8回ジャズオーケストラフェスティバル「ステラジャム」(9月) 団体 ステラジャムノミネー4 (全国大会3位)

##### <中学校>

- 弓道部：全国兵庫県予選大会 団体優勝 明治神宮奉納全国弓道大会出場
- ゴルフ部：関西中学校ゴルフ対抗戦 団体優勝 全国中学校ゴルフ選手権大会出場 関西中学校ゴルフ選手権大会 個人10位 全国大会出場
- テニス部：全国選抜中学校テニス大会 団体 準優勝 全国私立中学校テニス選手権大会 団体 優勝 兵庫県スポーツ優秀選手賞 団体・銀 受賞

## 法人

### 1 管理運営

#### (1) 学園の資金計画等の策定

学費改定を実施。学園創立100周年記念事業を見据えた資金計画の立案と、学園財政における学内外の要因を分析。

#### (2) 募金活動の強化

高等学校・中学校の生徒保護者を募集対象者とした「教育振興募金」に約5,200万円、大学の体育会強化指定クラブを受入対象とした「スポーツ教育力強化支援寄付金」に約380万円のご芳志を拝受。

#### (3) 労務・法務、リスク管理体制の強化

契約審査と法務相談の体制を強化させ、労務・法務管理を充実。監査部による各種監査の実施。個人情報保護や情報セキュリティ強化に向けた取組の実施。

#### (4) 中期的な人事政策の策定、快適な労働環境の維持・強化

より客観的かつ公正な人事評価を目的とした専任職員評価加算昇給制度を開始。改正労働安全衛生法に基づくストレスチェック体制を整備。

#### (5) 奨学助成基金の充実

第3号基本金組入れ（5,000万円）の継続。旧制甲南高等学校奨学金制度創設へ向けた寄付金を第3号基本金へ組入れ（6,000万円）。貸与制奨学金の延滞者（10年以上）への適切な回収を継続実施。

#### (6) 物品・物件調達の合理化、業務委託のコスト削減、資産管理の適正化

ボリュームディスカウントによる調達コストの削減を実施。業務委託の仕様見直しによる管理経費低減の取組を実施。

#### (7) 学園情報基盤の再構築

統合認証及び統合データベースの導入を検討。ソフトウェアライセンスの統合、情報システムの効率化、同運用管理や利用に関する取扱いやガイドライン等を制定・改正。

#### (8) ネットワークキャンパス東京の活動強化

“東京のキャンパス”としての機能強化に向け、Student's Zoneを新設、個室及びリラックスエリアを設置。さらに学生向け「東京ツアー」を企画、留学生及び卒業生との交流や東京を体感できるツアーを実施。就職活動サポートに向け、キャリアセンターのスタッフと遠隔システムで個別相談できる体制を構築。その他、新聞社や自治体とも連携し、東京における甲南大学のPR活動にも注力。平成28年度利用者数は延べ約4,100名。

### 2 広報活動・卒業生との連携

#### (1) 青少年の育成支援・地域社会への貢献を目的としたスポーツ・芸術活動への協賛

兵庫県立芸術文化センター、ヴィッセル神戸、堺プレイザーズをはじめとする地域性の高い諸団体との交流を通じた本学学生・生徒や地域社会に対する芸術・スポーツ活動の還元を実施。指揮者 佐渡裕氏が率いる「佐渡裕とスーパーキッ

ズ・オーケストラ」による東日本大震災の復興祈念活動である演奏会への支援を実施。

#### (2) 平生鈺三郎生誕150周年記念シンポジウム－おもしろく、ありがたく－

平生鈺三郎の生誕150周年を記念して、6月11日にシンポジウムを開催。貴志康一楽友協会によるロビーコンサートにはじまり、安西敏三法学部教授による講演のほか、旧制甲南高等学校出身で大阪大学名誉教授の福井敏郎氏や、藤本建夫名誉教授らによる「今、甦る偉材－平生鈺三郎－」と題したパネルディスカッションを実施。約450名が参加。



#### (3) 平生日記の翻刻

学園創立90周年を記念して開始した、学園創立者平生鈺三郎の32年間に亘る日記の翻刻事業を継続。平成28年度は、第13巻と第14巻（昭和7年2月1日～昭和9年4月30日）を刊行。

#### (4) 学園史資料の活用

旧制甲南高等学校で学んだ音楽家、貴志康一のオーケストラ作品「日本組曲」「日本スケッチ」の演奏用楽譜を整備し、学内外への広報活動を実施。引き続き「ヴァイオリン・ソナタ」「歌曲」「ヴァイオリン協奏曲」の出版に向けた取組を継続。

#### (5) 卒業生との連携強化

ホームカミング・デー「オール甲南の集い」を摂津祭（大学祭）と同日、同窓会と共同で開催。作家の玉岡おかる氏による特別講演会のほか、「平生鈺三郎生誕150周年」を記念した展示、クラブ・ゼミ等に所属していた卒業生によるホームカミングランチ、全体交流会等を開催し、約500名が参加。

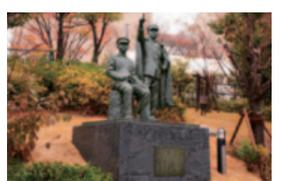
#### (6) 卒業生・地域向けの文化イベント「甲南×岡本梅と文化の花結日」を実施

学園創立100周年へ向けて、卒業生の帰属意識を高めることを目的に、岡本の地域性を活かした文化イベントを平成27年度より継続して実施。第2回は本学園卒業生の観世流能楽師・上田宜照氏による「菊慈童」を披露、田中修特別客員教授・名誉教授による梅にちなんだ植物に関する講演会のほか、事前申込者対象に本学園卒業生のシェフで野菜・ワインのソムリエでもある田中稔氏が腕を振るった「梅花弁当」を販売、田中名誉教授と田中シェフによる「植物」と「食物」に関するトークショー等の催しを実施、約200名が参加。



#### (7) 旧制甲南高等学校生銅像の設置

大正12（1923）年から昭和25（1950）年まで存在した旧制甲南高等学校を記念し、同窓会より寄贈された旧制甲南高等学校生銅像を、高等学校・中学校の正門横に設置。11月27日に除幕式を開催。



# II 財務の概要

## Ⅰ平成28年度決算の概要

本学園は創立100周年に向けて学長・校長のリーダーシップのもと、個性を伸ばす人物教育の推進、教育の展開を支える施設・設備の整備に努めています。今年度は学費を改定し、入学者数を定員に近づけ、これまで実施してきた少人数教育の展開をさらに進める年度でした。現場でのアイデアを教育力に反映するKONANプレミア・プロジェクトは、予算編成方針において1.5億円を目安として事業の前進を図るとともに、種々の取組を社会に発信すべく広報費としても執行しました。また整備の進む白川台キャンパスは中高生徒にも活発に利用され、学生・生徒の宿舎形式の行事やゼミ活動に使われました。さらに岡本キャンパス7号館サイエンス・ラーニング commons の整備、甲南大学図書館情報システムの更新、西宮キャンパスや高等学校・中学校の教室機器の更新、高等学校・中学校スポーツ屋内練習場の整備も行い、「教育力の甲南」を力強く支えています。

本年度は総資産が3億44百万円増加しました。平成29年9月のiCommons竣工に向け、特定資産を財源として建設仮勘定が増えています。なお、現金預金は減少しましたが、未収入金が増えたことによるものです。(平成29年5月時点で未収入金の半額以上は現金預金となっています。)

今後受け入れた資金(収入)を最大限有効に使い(支出し)、積極的に教育投資を行う姿勢を崩さず、今まで以上に力強く改革を後押し、本学園の掲げる人物教育を推進して100周年を迎えられるよう、財務面からもバックアップしていきます。

以下、各決算数字をご説明します。

## Ⅱ資金収支決算の概要

予算対比で見ますと、手数料収入が大きく伸びました。近年は伸び悩んでいた、大学の入学志願者数の増加によるもので、学生個々の個性を引き出し、人物重視の少人数教育を全学的に展開していることが学外へ徐々に浸透しつつあると思われる

### ★学校法人会計基準の一部改正

平成27会計年度より、学校法人会計基準が一部改正されました。社会・経済状況の大きな変化、会計のグローバル化等を踏まえた様々な会計基準の改正を受け、学校法人の経営状態を社会に分かりやすく説明する仕組みが求められていることが背景にあります。

## Ⅲ資金収支計算書(学園総括) 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	10,718,025	10,725,808	△ 7,783	人件費支出	7,648,822	7,643,533	5,289
手数料収入	556,338	581,768	△ 25,430	教育研究経費支出	3,153,154	3,020,958	132,196
寄付金収入	508,663	509,449	△ 786	管理経費支出	655,496	638,184	17,312
補助金収入	1,702,191	1,705,412	△ 3,221	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	0	0	0	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	118,616	124,980	△ 6,364	施設関係支出	2,875,726	2,806,570	69,156
受取利息・配当金収入	209,280	215,537	△ 6,257	設備関係支出	317,266	311,389	5,877
雑収入	297,958	299,462	△ 1,504	資産運用支出	4,476,721	5,433,985	△ 957,264
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	912,762	913,614	△ 852
前受金収入	1,989,080	2,020,137	△ 31,057	予備費	(206,210)		
その他の収入	6,402,250	6,251,068	151,182		53,790		53,790
資金収入調整勘定	△ 2,672,284	△ 2,687,442	15,158	資金支出調整勘定	△ 401,073	△ 404,894	3,821
前年度繰越支払資金	9,545,846	9,545,846	0	翌年度繰越支払資金	9,683,299	8,928,686	754,613
収入の部合計	29,375,963	29,292,025	83,938	支出の部合計	29,375,963	29,292,025	83,938

注記 予備費からの振替  
 人件費支出：981、教育研究経費支出：101,525、管理経費支出：30,281、施設関係支出：29,464、設備関係支出：43,959  
 計：206,210

す。また学生生徒等納付金収入は、除籍者数が少なかったことと、長期履修生の課程修了に伴い、当初の想定より前倒しで学費が納付されたこと等により増収となりました。なお大学部門においては昨年度に続き耐震改築及び研究装置の補助金の交付を受けています。

他方、支出では為替相場が円高に振れたことによる支出減があったこと、また省エネルギー活動の推進や、執行段階でのクオリティーコントロールと、相見積りの取得徹底等によるコストコントロールとのバランスに留意し、経費支出を抑えました。なお施設関係支出は、改修工事等に係る費用を仕分けし、経費支出へ振替えたことにより、予算を下回る執行となりました。

本学園は目的に応じた引当特定資産を有しており、その特定資産への積増し・取崩しが「資産運用支出」・「その他の収入」です。本学園では施設関係の支出は原則として償却引当特定資産を財源とし(取崩し)ていますが、一部の施設関係支出を前述の通り、経費に振替えたことにより取崩額が減少し、「その他の収入」が減少することとなりました。また、取崩額の減少に伴う資金収入は「その他の活動」に区分されていますが、これは理事長・学長・校長から提案された「優秀な学生への支援」、「学園の戦略広報・スポーツ強化支援」及び「国際的に卓越した研究推進」等に重点配分し、「教育」や「施設整備等」の両活動に使用しています。なお繰越支払資金は前年度より減っていますが、未収入金が増えており、合算してご理解ください。

(活動区分資金収支計算書は次ページに掲載しています)

## Ⅳ活動区分資金収支計算書(学園総括) 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位:千円)

(注記) 調整勘定の計算 (単位:千円)

科目	金額
学生生徒等納付金収入	10,725,808
手数料収入	581,768
特別寄付金収入	209,050
経常費等補助金収入	1,245,702
付随事業収入	124,683
雑収入	299,462
教育活動資金収入計	13,186,473
人件費支出	7,643,533
教育研究経費支出	3,020,958
管理経費支出	638,184
教育活動資金支出計	11,302,675
差調整勘定引	1,883,798
調整勘定等	△ 134,429
教育活動資金収支差額	1,749,369

科目	金額
施設設備寄付金収入	300,399
施設設備補助金収入	459,710
施設設備売却収入	0
第2号基本金引当特定資産取崩収入	1,669,680
償却引当特定資産取崩収入	2,551,631
理系学部設備充実費引当特定資産取崩収入	43,088
施設整備等活動資金収入計	5,024,508
施設関係支出	2,806,570
設備関係支出	311,389
第2号基本金引当特定資産繰入支出	1,100,000
償却引当特定資産繰入支出	2,444,848
理系学部設備充実費引当特定資産繰入支出	41,941
施設整備等活動資金支出計	6,704,748
差調整勘定引	△ 1,680,240
調整勘定等	△ 439,458
施設整備等活動資金収支差額	△ 2,119,698
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 370,329

科目	金額
借入金等収入	0
第3号基本金引当特定資産取崩収入	0
退職給与引当特定資産取崩収入	642,434
大学教育・研究環境整備充実引当特定資産取崩収入	335,869
大学将来計画引当特定資産取崩収入	445,010
平生太郎基金引当特定資産取崩収入	31,551
岡崎一雄基金引当特定資産取崩収入	4,793
中高教育充実引当特定資産取崩収入	8,043
貸付金回収収入	65,416
預り金受入収入	157,549
仮払金受入収入	417
立替金受入収入	4,461
敷金・保証金回収収入	0
小計	1,695,543
受取利息・配当金収入	215,537
収益事業収入	297
その他の活動資金収入計	1,911,377
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	0
第3号基本金引当特定資産繰入支出	110,728
退職給与引当特定資産繰入支出	624,775
大学教育・研究環境整備充実引当特定資産繰入支出	400,000
大学将来計画引当特定資産繰入支出	578,379
平生太郎基金引当特定資産繰入支出	84,694
岡崎一雄基金引当特定資産繰入支出	5,000
中高教育充実引当特定資産繰入支出	43,170
出資金支出	450
貸付金支払支出	3,490
預り金支払支出	191,514
仮払金支払支出	111
立替金支払支出	3,788
敷金・保証金支払支出	0
その他の活動資金支出計	2,046,099
差調整勘定引	△ 134,722
調整勘定等	△ 112,109
その他の活動資金収支差額	△ 246,831
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 617,160
前年度繰越支払資金	9,545,846
翌年度繰越支払資金	8,928,686

科目	金額
前受金収入	2,020,072
前期末前受金*	△ 2,047,593
前期末未収入金収入	264,455
期末未収入金*	△ 181,698
収入計	55,236
前払金支払支出	104,840
前期末前払金*	△ 43,433
前期末未払金支払支出	482,265
期末未払金*	△ 354,007
支出計	189,665
調整勘定計	△ 134,429

科目	金額
前受金収入	65
前期末前受金*	0
前期末未収入金収入	26,671
期末未収入金*	△ 458,151
収入計	△ 431,415
前払金支払支出	0
前期末前払金*	0
前期末未払金支払支出	8,043
期末未払金*	0
支出計	8,043
調整勘定計	△ 439,458

科目	金額
前受金収入	0
前期末前受金*	0
前期末未収入金収入	0
期末未収入金*	0
収入計	0
前払金支払支出	0
前期末前払金*	0
前期末未払金支払支出	119,563
期末未払金*	△ 7,454
支出計	112,109
調整勘定計	△ 112,109

従来の「資金収支計算書」の様式に加え、決算時に活動区分に分けた「活動区分資金収支計算書」を作成(活動区分:「教育」「施設整備等」「その他」の各活動区分)することになりました。  
 ・「教育活動」: キャッシュベースで本業の教育活動の収支状況を把握できます。通常は「+」となります。  
 ・「施設整備等活動」: 当年度に施設設備の購入または売却その他これらに類する活動があったが、財源は何かを把握できます。教育活動のプラス分を施設整備にまわすため、通常は「-」となります。  
 ・「その他の活動」: 借入金の収支、資産運用の状況、収益事業にかかる活動等、主に財務活動を把握できます。教育や施設の資金を特定資産や借入金で調達していれば「+」、逆の場合や特定資産への積み立てが多ければ「-」となります。  
 上表の「\*」の科目がP.13資金収支計算書(学園総括)の「資金収入(支出)調整勘定」となります。

## 《用語の説明》

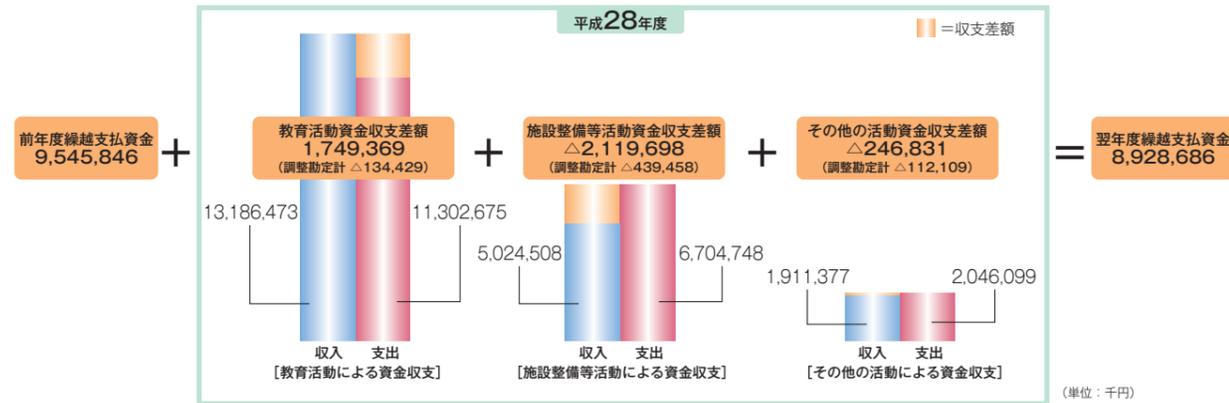
<b>資金収支</b>	1年間の教育研究活動に伴う資金の収入と資金の支出を明らかにし、支払資金の順末を表わすものです。
<b>活動区分資金収支</b>	資金収支のうち、施設設備の取替更新や更なる取得を「施設整備等活動」として取り出し、また財務活動や収益事業さらには預り金の受払い等の経過的な活動を「その他の活動」として取り出し、それ以外のものを「教育活動」として、3つの活動に分けて表わすものです。
<b>事業活動収支</b>	企業会計の損益計算の仕組みを引用し、負債にならない収入(事業収入)と費用(事業支出)の内容と均衡の状態を明らかにしようとするものです。この収支は、経常的な収支のうち、財務活動(資金調達・運用)及び収益事業に係る活動による「教育活動外収支」、また特殊要因によって一時的に発生した臨時的な活動(例:過年度修正額、資産売却差額、資産処分差額、災害損失、さらには施設設備にかかる寄付金・補助金・現物寄付)による「特別収支」、そしてそれ以外の「教育活動収支」に分けて、収支の均衡を表示します。
<b>事業活動収入</b>	資金収支計算書の収入の部「学生生徒等納付金収入」、「手数料収入」、「寄付金収入」、「補助金収入」、「付随事業収入」、「受取利息・配当金収入」、「雑収入」、「その他の特別収入(施設設備にかかる寄付金・補助金)」に現物寄付、等を加えたもので、負債とならない正味の収入をいいます(外部からの借入金のように学校法人の負債となる収入は含みません)。
<b>事業活動支出</b>	資金収支計算書の支出の部の「人件費支出(退職金支出を除き、事業活動支出科目の退職給与引当金繰入額・退職金を加える)」、「教育研究経費支出・管理経費支出(減価償却額を加える)」、「借入金等利息支出」に事業活動支出のみの項目である「資産処分差額」、「徴収不能額等」を加えたものです。
<b>基本金組入前当年度収支差額</b>	事業活動収入と事業活動支出との差です。毎期の収支バランスを見るとともに、基本金組入れ余力を表示します。

※企業会計と学校法人会計の相違につきましては、本学ホームページに記載しています。



# II 財務の概要

## I 繰越支払資金の流れ



## II 事業活動収支決算の概要

学園全体の事業活動収入は143億11百万円、事業活動支出は136億22百万円となり、その差額である基本金組入前当年度収支差額は6億89百万円の収入超過となりました。また基本金組入額(下段《科目の説明》ご参照)は、白川台キャンパス・iCommons建設に伴うもののほか、同窓会からの旧制甲南高等学校を記念した寄付を奨学基金に組入れましたが、他方で建物、教育研究用機器備品や図書を処分したこと等により、予算を下回る17億91百万円となり、当年度収支差額は△11億02百万円となりました。

予算対比で見ますと、各事業活動の収入(予算は141億41百万円)はすべての科目で上回りましたが、特に大学で入学志願者が増えたこと、また教員着任に伴う教育機器等の現物寄贈の受入れにより、1億70百万円の増額となりました。他方、事業活動支出においては建物等の除却により資産処分差額が増えました。これは本学園では、固定資産の除却は決算時に会計処理(予算ではiCommonsの建設に伴う既存建物の取壊しによる処分差額のみ計上)を行うことを原則としており、償却年数を経過した教育機器や重複した図書の除却を計上したためです。しかし他方で、先述のとおり教育研究経費や管理経費の経費支出が抑えられ、予備費の執行残も発生した結果、支出額が抑制されました。

最終的にこれらの合計である事業活動支出は、予算額138億36百万円に対して、決算では136億22百万円と、2億14百万円の減額となりました。

以上、収入は増額、支出は減額となり、予算では3億05百万円であった

基本金組入前当年度収支差額は、6億89百万円と大きく改善されました。

次に、前年度決算と比較しますと、収入では4億88百万円、支出では98百万円の増額となりました。収入面では学園創立100周年に向けた事業の推進とともに、多額の寄付が寄せられ、さらに現物寄贈もあり3億88百万円の増額となりました。また補助金は大学改革推進経費の交付を受け、耐震改修補助金の増額もあって1億03百万円の増額となりました。この他では学費改定による学生生徒等納付金、大学の入学志願者数の増による手数料がそれぞれ増収となりましたが、退職者の減少によって退職金財団交付金収入(雑収入)が減収となりました。

他方、事業活動支出では、職員人件費や退職給与引当金繰入額等の人件費が減額となる一方で、白川台キャンパスや高等学校・中学校スポーツ屋内練習場の整備により減価償却額が増え、あわせて業務委託費が増加するなど、教育研究・管理の両経費が増額となりました。またiCommons等の建設のための旧建物の除却により資産処分差額が膨らみました。この資産処分差額が大きく影響し、支出は前年度を上回ることとなりました。

また基本金組入額は、前年度はiCommons建設と中高再開発事業という2つの大きな組入れ案件が重なったこともあり27億03百万円を計上しましたが、今年度は第2号基本金が建物に振り替わり、減額となったため、総額で9億12百万円減少しました。なお今年度の組入れのうち、奨学金等の基金である第3号基本金には、同窓会から奨学基金として旧制甲南高等学校を記念した寄付を賜ったことを受け、前年度の2倍強となる1億11百万円を組入れております。

## 《科目の説明》

### 1. 学生生徒等納付金

授業料、入学金、施設設備資金、施設維持費、教育充実費、実験実習費等

### 2. 手数料

入学検定料、証明書手数料等

### 3. 寄付金

教育振興募金、100周年記念事業募金、企業様からの研究助成等

### 4. 補助金

経常費補助金(戦略的研究基盤形成支援事業、教学評価体制(IRネットワーク)による学士課程教育の質保証事業を含む)、研究装置、設備、施設整備費等補助金等

\* 研究設備や装置等の設備に対する寄付金や補助金は、特別収支の「その他の特別収入」に計上されます。

### 5. 受取利息・配当金

特定資産を含む金銭面の資産運用による収入(施設設備の貸出しによる「施設設備利用料収入」は含みません)

### 6. 付随事業・収益事業収入

補助活動や受託事業、収益事業にかかる収入等

### 7. 雑収入

退職金財団からの交付金収入、研究費の間接経費分の収入、施設設備の貸出しによる収入等

### 8. 人件費

教員・職員に支給する本俸・期末手当・その他の手当及び所定福利費、役員報酬、退職給与引当金繰入額、退職金

### 9. 教育研究経費

教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額

### 10. 管理経費

教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額

### 11. 資産処分差額

固定資産(建物・構築物・備品・図書等)の除却、廃棄差額

### 12. 徴収不能額等

奨学金回収不能額を見積る引当金計上額や、徴収が不能または徴収を免除した徴収不能額

### 13. 基本金組入額

校地・校舎・機器備品・図書等教育研究の充実・拡充のために取得した固定資産の充実に要した額及び教育研究基金等への組入額

(基本金は学校法人が教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な校地・校舎、機械器具、図書等取得した金額(第1号基本金)、校地・校舎等取得するために年次的、段階的に積み立てる資金(第2号基本金)、教育・研究を維持充実するための積立(第3号基本金)及び恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額(第4号基本金)の確保のために、充てられる金額です。)

## III 事業活動収支決算書・構成比率(学園総括)

(単位：千円)

科目	予算	決算	差異	比率
教育活動収入				
学生生徒等納付金	10,718,025	10,725,808	△ 7,783	74.9%
手数料	556,338	581,769	△ 25,431	4.1%
寄付金	221,622	209,049	△ 12,573	1.5%
経常費等補助金	1,242,481	1,245,702	△ 3,221	8.7%
付随事業収入	118,236	124,683	△ 6,447	0.9%
雑収入	297,958	303,866	△ 5,908	2.1%
教育活動収入計	13,154,660	13,190,877	△ 36,217	92.2%
事業活動支出				
人件費	7,622,289	7,608,573	13,716	53.2%
教育研究経費	5,081,169	4,942,242	138,927	34.5%
管理経費	671,052	649,187	21,865	4.5%
徴収不能額等	0	248	△ 248	0.0%
教育活動支出計	13,374,510	13,200,250	174,260	92.2%
教育活動収支差額	△ 219,850	△ 9,373	△ 210,477	

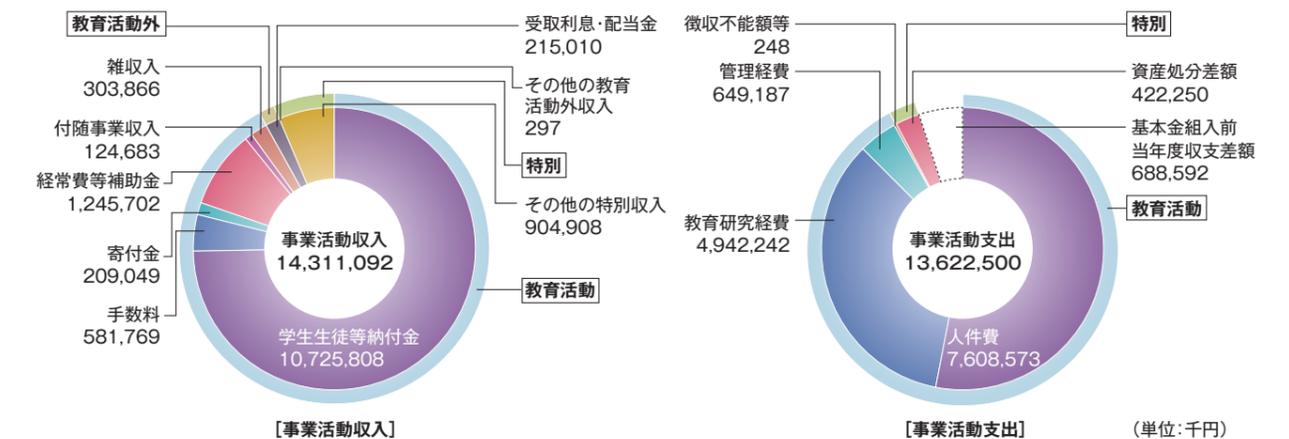
科目	予算	決算	差異	比率
教育活動外収入				
受取利息・配当金	209,280	215,010	△ 5,730	1.5%
その他の教育活動外収入	380	297	83	0.0%
教育活動外収入計	209,660	215,307	△ 5,647	1.5%
事業活動支出				
借入金等利息	0	0	0	0.0%
その他の教育活動外支出	0	0	0	0.0%
教育活動外支出計	0	0	0	0.0%
教育活動外収支差額	209,660	215,307	△ 5,647	
経常収支差額	△ 10,190	205,934	△ 216,124	

科目	予算	決算	差異	比率
特別収入				
資産売却差額	0	0	0	0.0%
その他の特別収入	776,751	904,908	△ 128,157	6.3%
特別収入計	776,751	904,908	△ 128,157	6.3%
事業活動支出				
資産処分差額	334,565	422,250	△ 87,685	3.0%
その他の特別支出	0	0	0	0.0%
特別支出計	334,565	422,250	△ 87,685	3.0%
特別収支差額	442,186	482,658	△ 40,472	

[ 予 備 費 ]	(132,787)		127,213	
	127,213			
基本金組入前当年度収支差額	304,783	688,592	△ 383,809	
基本金組入額合計	△ 2,409,501	△ 1,791,097	△ 618,404	△ 12.5%
当年度収支差額	△ 2,104,718	△ 1,102,505	△ 1,002,213	
前年度繰越収支差額	△ 12,778,225	△ 12,778,225	0	
基本金取崩額	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 14,882,943	△ 13,880,730	△ 1,002,213	

(参考)

事業活動収入計	14,141,071	14,311,092	△ 170,021	100.0%
事業活動支出計	13,836,288	13,622,500	213,788	95.2%



※表の構成比率及び円グラフは、事業活動収入「決算」を100とした場合の当該科目の比率及び円グラフとなっています。

・「その他の教育活動外収入」には、収益事業収入が計上されています。

・「その他の特別収入」には、施設設備の寄付金と補助金、現物寄付が計上されています。



# II 財務の概要

## I 財務状況の推移(学園総括) 平成23年度から平成28年度まで

(単位:千円)

項目	年度	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末
総資産		88,103,509	88,029,824	88,419,425	88,639,938	88,767,591	89,111,390
固定資産		78,539,816	78,186,273	78,386,264	78,346,382	78,854,695	79,003,218
有形固定資産		58,688,791	57,752,547	57,611,811	57,515,542	57,907,450	58,810,260
特定資産		19,002,413	19,655,669	20,087,388	20,228,064	20,018,230	19,719,139
その他の固定資産		848,612	778,057	687,065	602,776	929,015	473,819
流動資産		9,563,693	9,843,551	10,033,161	10,293,556	9,912,896	10,108,172
総負債		7,690,828	7,724,197	7,543,818	7,612,598	7,440,987	7,096,194
固定負債		5,117,642	5,008,317	4,787,740	4,678,542	4,584,451	4,549,490
流動負債		2,573,186	2,715,880	2,756,078	2,934,056	2,856,536	2,546,704
(うち、借入金)		0	0	0	0	0	0
基本金		88,440,208	88,750,336	90,102,489	91,401,653	94,104,829	95,895,926
繰越収支差額 (旧:消費収支差額)		△ 8,027,527	△ 8,444,709	△ 9,226,882	△ 10,374,313	△ 12,778,225	△ 13,880,730
純資産 (旧:正味財産)		80,412,681	80,305,627	80,875,607	81,027,340	81,326,604	82,015,196

(注)・平成27年度の学校法人会計基準の改正(新基準)から、「その他の固定資産」のうち、各種引当特定資産を抽出して、中科目「特定資産」が新設されました。  
(平成26年度以前も新基準に合わせて分解し、表示しています。)

## I 財務比率の推移(学園総括) 平成23年度から平成28年度まで

新基準となりましたが、経年推移・比較が分かるよう、旧基準の数値も掲載しています。

(単位:%)

	比率名	算式(×100)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
貸借対照表関係	固定資産構成比率	固定資産 / 総資産	89.1	88.8	88.7	88.4	88.8	88.7
	固定比率	固定資産 / *純資産(旧:自己資金)	(87.4)	(87.3)	(87.4)	(87.2)	(87.2)	96.3
	固定長期適合率	固定資産 / *純資産 + 固定負債(純資産は、旧:自己資金)	91.8	91.6	91.5	91.4	91.8	91.3
	流動比率	流動資産 / 流動負債	371.6	362.4	364.0	350.8	347.0	396.9
	流動負債構成比率	流動負債 / 総負債 + 純資産	2.9	3.1	3.1	3.3	3.2	2.9
	総負債比率	総負債 / 総資産	8.7	8.8	8.5	8.6	8.4	8.0
	退職給与引当預金率	退職給与引当特定預金(資産) / 退職給与引当金	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
	償却引当預金率	償却引当特定預金(資産) / 償却引当金	25.7	26.1	27.5	29.0	24.3	23.1

(単位:%)

	比率名	算式(×100)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
事業活動収支関係	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / *事業活動収入(旧:帰属収入)	80.9	79.4	77.1	77.8	77.0	74.9
		[新] 学生生徒等納付金 / 経常収入	(71.6)	(74.6)	(74.8)	(73.9)	(73.6)	80.0
	寄付金比率	寄付金 / *事業活動収入(旧:帰属収入)	1.0	1.0	2.8	1.3	1.9	4.6
	[新] 経常寄付金比率	[新] 教育活動収入の寄付金 / 経常収入	(3.1)	(2.7)	(1.6)	(1.6)	(1.9)	1.6
	補助金比率	補助金 / *事業活動収入(旧:帰属収入)	9.7	9.0	9.8	10.0	11.6	11.9
	[新] 経常補助金比率	[新] 教育活動収入の補助金 / 経常収入	(11.4)	(11.7)	(12.1)	(11.9)	(11.7)	9.3
	人件費比率	人件費 / *帰属収入(新:事業活動収入)	57.1	57.9	57.6	59.8	56.2	53.2
		[新] 人件費 / 経常収入	(53.5)	(51.9)	(52.5)	(52.3)	(51.7)	56.8
	人件費依存率	人件費 / 学生生徒等納付金	57.3	58.6	58.3	60.2	58.7	53.3
		人件費 / 学生生徒等納付金	70.5	72.9	74.6	76.8	73.1	70.9
教育研究経費比率	教育研究経費 / *帰属収入(新:事業活動収入)	34.7	33.0	32.6	34.5	35.6	34.5	
	[新] 教育研究経費 / 経常収入	(31.6)	(32.9)	(33.6)	(33.6)	(33.4)	36.9	
管理経費比率	管理経費 / *帰属収入(新:事業活動収入)	7.2	6.2	4.7	4.3	4.4	4.5	
	[新] 管理経費 / 経常収入	(7.1)	(7.8)	(7.3)	(7.5)	(7.3)	4.8	
事業活動支出比率	(旧:消費支出) / 事業活動収入(旧:帰属収入)	99.6	100.8	96.0	98.9	97.8	95.2	
基本金組入率	基本金組入額 / 事業活動収入(旧:帰属収入)	(95.2)	(94.2)	(95.2)	(94.9)	(94.0)	12.5	

(注)・( )内は全国理工他複数学部法人平均。  
 ・「新」は平成27年度の学校法人会計基準の一部改正(新基準)を受けたものであることを表します。  
 ・「固定資産」=有形固定資産+特定資産+その他の固定資産。平成27年度からの新基準より、「その他の固定資産」から各種引当特定資産を抽出して「特定資産」が区分されました。  
 ・「純資産」=旧来の「自己資金」。「自己資金」は基本金+消費収支差額であり、新基準では基本金+繰越収支差額となります。  
 ・「経常収入」=教育活動収入+教育活動外収入。

# Ⅲ 法人の概要

<b>名称</b>	学校法人甲南学園		
<b>法人設立の年月日</b>	大正7(1918)年12月20日		
<b>設置学校</b>	甲南大学・大学院		
	◎岡本キャンパス	〒658-8501	兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
	◎西宮キャンパス	〒663-8204	兵庫県西宮市高松町8番33号
	◎ポートアイランドキャンパス	〒650-0047	兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番20
	-----		
	甲南高等学校・中学校	〒659-0096	兵庫県芦屋市山手町31番3号

## Ⅰ役員(平成29年3月31日現在)

### 理事※1

定数19～29名以内  
現員28名

吉沢英成 (理事長)
片山勉 (副理事長)
長坂悦敬 (学長)
山内守明 (校長)
稲田義久 (副学長)
中井伊都子 (副学長)
葉袋真人 (常勤)
平野欽一郎 (常勤)
出口晶子 (文学部長)
日下部岳広 (理工学部長)
小山直樹 (経済学部長)
武井寛 (法学部長)
渡邊和俊 (経営学部長)
渡辺颯修 (法学研究科長)
佐藤治正 (マネジメント創造学部教授)
杉本直己 (先端生命工学研究所長)
市川典男 (非常勤)
山田純嗣 (非常勤)
伊藤勲 (非常勤)
稲垣嗣夫 (非常勤)
岡橋輝和 (非常勤)
小林豊 (非常勤)
角和夫 (非常勤)
中内仁 (非常勤)
野澤太郎 (非常勤)

平生誠三 (非常勤)
水越浩士 (非常勤)
村津敬介 (非常勤)

### 監事※2

定数2～3名以内  
現員2名

植村武雄 (非常勤)
牧美喜男 (常勤)

### 評議員※3

定数41～60名以内  
現員59名

石井昇 (学内)
石野牧生 (学内)
位原美智子 (学内)
河口浩 (学内)
佐藤治正 (学内)
谷向豊 (学内)
寺尾建 (学内)
濱谷和生 (学内)
林正樹 (学内)
村嶋貴之 (学内)
足立恵英 (学内)
半田岳英 (学内)

赤田真朗
伊豫田隆俊 (学内)
衣斐茂樹
奥田兼三
小倉宏之
片山勉 (学内)
佐藤茂
白石朋康
杉山洋一
立野純三
道満善弘
松井佐一郎
丸谷昭博
葉袋真人 (学内)
和田直哉
稲垣嗣夫
平生誠三
平野欽一郎 (学内)
吉沢英成 (学内)
長坂悦敬 (学内)
山内守明 (学内)
出口晶子 (学内)
日下部岳広 (学内)
小山直樹 (学内)
武井寛 (学内)

渡邊和俊 (学内)
渡辺颯修 (学内)
宇津原彰一
金岡信康
上林宏充
熊田昭夫
嶮進
澁谷眞紀
中島武
市川典男
稲田義久 (学内)
岩崎邦彦
岩田憲明
上島一泰
加藤隆久
佐々木良太郎
中井伊都子 (学内)
藤本真人
細谷俊雄
松谷齊泰
西田和雅 (学内)
山田純嗣

※1 学校法人の決議機関は理事会であり、私立学校法は、「学校法人に理事をもって組織する理事会を置く。」「理事会は学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。」としています。理事は理事会に参画し、学校法人の業務を決めています。

※2 監事は、理事と同じように学校法人の役員となっています。監事は監査機関であって、①学校法人の業務、②学校法人の財産の状況を監査することが主たる任務とされています。そのほか、監査報告書の作成、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べることもその職務とされています。監事は、評議員の同意を得て理事長が選任し、監事は、監査の公正を保つために、理事、評議員又は学校法人の職員と兼ねてはならないこととされています。

※3 評議員会は、学校法人の重要事項について、理事長から意見を求められ、理事長に対して意見を述べる諮問機関としての役割があります。予算の決定、基本財産の処分、寄附行為の変更等の重要案件については、理事長はあらかじめ評議員会から意見を聞かなければならないこととされています。

## Ⅰ土地と建物(平成29年3月31日現在)

土地面積	
大学	302,216.63㎡
高等学校・中学校	45,791.00㎡
その他(職員住宅等)	4,908.08㎡
土地面積総合計	352,915.71㎡

建物面積	
大学	134,760.72㎡
高等学校・中学校	18,908.58㎡
その他(職員住宅等)	1,624.75㎡
建物面積総合計	155,294.05㎡

## 大学・大学院・高等学校・中学校基本データ

### Ⅰ学位授与 学士

学 部	学 士 (分野)	学 科		
文 学 部	学士(文学) 学士(社会学)	345名	日本語日本文学科	72名
		96名	英語英米文学科	98名
			社会学科	96名
			人間科学科	112名
			歴史文化学科	63名
理 工 学 部	学士(理工学) 学士(理学)	85名	物理学科	43名
		62名	生物学科	45名
			機能分子化学科	59名
			経済学科	365名
経 済 学 部	学士(経済学)	365名	経済学科	365名
法 学 部	学士(法学)	355名	法学科	355名
経 営 学 部	学士(経営学)	396名	経営学科	396名
知 能 情 報 学 部	学士(工学) 学士(情報学) 学士(理学)	104名	知能情報学科	110名
		3名		
		3名		
マ ネ ジ メ ン ト 創 造 学 部	学士(マネジメント)	184名	マネジメント創造学科	184名
フロンティアサイエンス学部	学士(理工学)	31名	生命化学科	31名

### 修士

研究科	修 士 (分野)	専 攻		
人 文 科 学 研 究 科	修士(文学) 修士(社会学)	13名	日本語日本文学専攻	2名
		0名	英語英米文学専攻	2名
			応用社会学専攻	0名
			人間科学専攻	9名
自 然 科 学 研 究 科	修士(理学) 修士(工学)	31名	物理学専攻	13名
		6名	化学専攻	6名
			生物学専攻	12名
			知能情報学専攻	6名
社 会 科 学 研 究 科	修士(経済学) 修士(経営学)	3名	経済学専攻	3名
		0名	経営学専攻	0名
フロンティアサイエンス研究科	修士(理工学)	12名	生命化学専攻	12名

### 博士

研究科	博 士 (分野)	専 攻		
人 文 科 学 研 究 科	博士(文学)	0名	人間科学専攻	0名
自 然 科 学 研 究 科	博士(理学) 博士(情報学)	5名	生命・機能科学専攻	5名
		0名	知能情報学専攻	0名
社 会 科 学 研 究 科	博士(経営学)	0名	経営学専攻	0名
フ ロ ン テ ィ ア サ イ エ ン ス 研 究 科	博士(理工学)	0名	生命化学専攻	0名

### 専門職

研究科	学 位 (専門職)	専 攻		
法 学 研 究 科	法務博士(専門職)	11名	法務専攻	11名

### 高等学校・中学校

主な留学派遣・受入先	派遣人数	受入人数	
交換留学	イギリス	2	3
	オーストラリア	1	1
	アメリカ(ハワイ)	2	1
	ニュージーランド	2	2
	カナダ	7	—
グローバル・スタディ・プログラム	アメリカ	4	—
	オーストラリア	7	—
	イギリス	12	—
グローバル・ファウンデーション	ニュージーランド	7	—
	オーストラリア	27	—
英語研修	オーストラリア	16	20
	ニュージーランド	10	16
グローバル・スタディ・ツアー	ベトナム	17	—
合計	114	43	

※( )内的人数は、「甲南大学イヤー・イン・ジャパンプログラム」として受入れた36名中の交換留学生の人数

※主な派遣先大学は32校(アメリカ・カナダ・イギリス・ドイツ・フランス・オーストラリア・韓国・中国・台湾)

# Ⅲ 法人の概要

## I 入学試験状況

### 大学

学部・学科	一般入試			センター利用入試			その他の入試			
	志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	日本語日本文学科	425	415	101	257	253	73	55	55	29
	英語英米文学科	537	527	163	237	234	73	91	90	45
	社会学科	683	670	153	370	365	82	88	88	46
	人間科学科	793	782	151	322	319	69	100	100	45
	歴史文化学科	612	599	73	437	429	51	69	69	32
	小計	3,050	2,993	641	1,623	1,600	348	403	402	197
理工学部	物理学科	507	483	190	150	147	48	33	33	20
	生物学科	543	528	141	182	177	47	35	35	20
	機能分子化学科	451	434	219	152	146	53	30	30	22
	小計	1,501	1,445	550	484	470	148	98	98	62
経済学部	2,481	2,444	498	1,126	1,111	444	344	342	176	
法学部	1,966	1,929	476	1,106	1,094	354	282	282	180	
経営学部	2,075	2,034	387	959	950	233	488	485	194	
知能情報学部	636	612	204	329	320	75	102	102	56	
マネジメント創造学部	656	646	209	234	227	96	243	236	105	
フロンティアサイエンス学部	234	229	106	190	185	116	19	19	14	
合計	12,599	12,332	3,071	6,051	5,957	1,814	1,979	1,966	984	

※その他の入試とは、公募制推薦入学試験、AO入学試験、スポーツ能力に優れた者の推薦入学試験、経営学部高等学校商業科推薦入学試験、理工学部高等学校工業科推薦入学試験、指定校推薦入学、協定校推薦入学、帰国生入学試験、社会人入学試験、外国人留学生

### 大学院(修士課程)

課程	研究科・専攻	志願者数	受験者数	合格者数
人文科学	日本語日本文学専攻	0	0	0
	英語英米文学専攻	0	0	0
	応用社会学専攻	0	0	0
	人間科学専攻	32	28	11
	小計	32	28	11
自然科学	物理学専攻	8	5	5
	化学専攻	14	14	12
	生物学専攻	7	5	5
	知能情報学専攻	7	6	6
	小計	36	30	28
社会科学	経済学専攻	11	11	7
	経営学専攻	5	5	4
	小計	16	16	11
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	12	12	10
合計		96	86	60

修士課程：一般入学試験、社会人入学試験、AO入学試験、外国人留学生入学試験、学内推薦入学試験、学内選考入学試験

### 大学院(博士後期課程)

課程	研究科・専攻	志願者数	受験者数	合格者数
人文科学	日本語日本文学専攻	0	0	0
	英語英米文学専攻	0	0	0
	応用社会学専攻	0	0	0
	人間科学専攻	1	1	0
	小計	1	1	0
自然科学	物理学専攻	0	0	0
	生命・機能科学専攻	3	3	3
	知能情報学専攻	1	1	1
	小計	4	4	4
社会科学	経営学専攻	2	2	2
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	0	0	0
合計		7	7	6

博士後期課程：一般入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験

### 大学院(専門職学位課程)

専攻	志願者数	受験者数	合格者数
法科大学院(法学研究科法務専攻)	163	138	68

法科大学院：一般入学試験、未修者特別選抜

### 高等学校

募集形態	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
アドバンスト・コース	14	14	13	12	1.2
一般・推薦併願(上記に含む)	(1)	(1)	(1)	(0)	

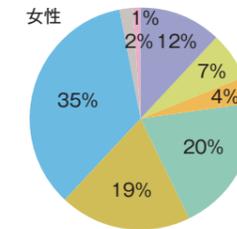
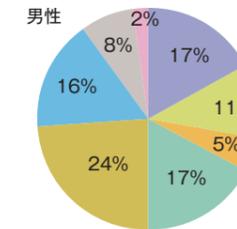
### 中学校

募集形態	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
I期午前入試	133	131	105	96	1.2
I期午後入試	250	239	104	18	2.3
II期入試	247	135	88	27	1.5
III期入試	131	58	24	6	2.4
甲南小学校	22	22	22	22	—
合計	783	585	343	169	—

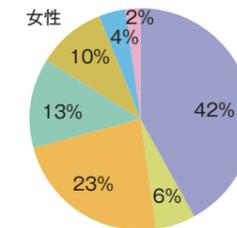
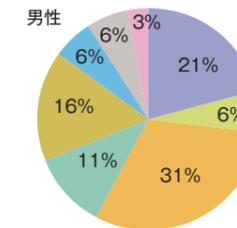
## I 大学(学部学生)の就職状況

### 業種別就職状況

<文系>



<理系>



- メーカー
- 建設・不動産業
- ソフトウェア・情報通信業
- サービス業
- 卸・小売業
- 金融・保険業
- 公務員
- 教員

### 規模別就職状況

従業員数	文系			理系			全体		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
3,000人以上	23%	24%	23%	21%	12%	18%	23%	23%	23%
1,000人以上	27%	30%	28%	29%	24%	28%	27%	30%	28%
500人以上	18%	18%	18%	20%	20%	20%	18%	18%	18%
500人未満	32%	28%	31%	30%	44%	34%	32%	29%	31%

### 主な就職先

男性

就職先
株式会社竹中工務店
アサヒグループホールディングス株式会社
ユーシーシー上島珈琲株式会社
小林製薬株式会社
田辺三菱製薬株式会社
株式会社キーエンス
株式会社デンソー
東京瓦斯株式会社
西日本電信電話株式会社
日本通運株式会社
JFE商事株式会社
日本出版販売株式会社
株式会社三井住友銀行
株式会社三菱東京UFJ銀行
東京海上日動火災保険株式会社
楽天株式会社
大阪税関

女性

就職先
伊藤ハム株式会社
グンゼ株式会社
小野薬品工業株式会社
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
住友電装株式会社
ダイキン工業株式会社
株式会社ニコン
日本電産株式会社
富士通株式会社
九州朝日放送株式会社
ソフトバンク株式会社
オリックス株式会社
株式会社三井住友銀行
株式会社三菱東京UFJ銀行
楽天株式会社
大阪国税局
大阪府庁

# Ⅲ 法人の概要

## Ⅰ学生・生徒数(平成28年5月1日現在)

### 大学

学部	入学定員	編入定員	収容定員	実員
文学部	400	10	1,620	1,904
理工学部	155	—	620	705
経済学部	350	—	1,400	1,617
法学部	350	—	1,400	1,655
経営学部	345	—	1,380	1,670
知能情報学部	120	—	480	549
マネジメント創造学部	180	—	720	783
フロンティアサイエンス学部	35	—	140	146
合計	1,935	10	7,760	9,029

### 高等学校・中学校

学校	入学定員	収容定員	実員
高等学校	200	600	585
中学校	175	525	539

### 大学院

研究科	課程	入学定員	収容定員	実員	課程	入学定員	収容定員	実員
人文科学研究科	修士	26	52	27	博士後期	10	30	16
自然科学研究科	修士	35	70	76	博士後期	8	24	12
社会科学研究科	修士	20	40	10	博士後期	3	9	6
フロンティアサイエンス研究科	修士	10	20	24	博士後期	1	3	3
合計		91	182	137		22	66	37

### 専門職大学院

研究科	入学定員	収容定員	実員
法学研究科	20	96	53
合計	20	96	53

## Ⅱ卒業生累計数(平成29年3月31日現在)

旧制中学校・旧制高等学校	1,889
新制高等学校	11,702

学部	卒業生累計数
学部	100,591
大学院(修士)	2,448
大学院(博士)	104
専門職大学院	598

## Ⅲ専任教職員数(平成28年5月1日現在)

### 大学・大学院・センター・研究所

	文学部	理工学部	経済学部	法学部	経営学部	知能情報学部	創造マネジメント学部	フロンティアサイエンス学部	スポーツ・健康科学研究センター	国際言語文化センター	共通教育センター	国際交流センター	教職教育センター	先端生命科学研究所	法科大学院	学生相談室	合計
教授	42	23	22	19	22	10	8	8	4	9	6	0	1	1	13	1	189
准教授	11	9	3	3	3	9	7	3	3	4	1	0	0	1	2	0	59
講師	0	2	1	2	0	0	10	2	0	4	1	3	0	2	0	0	27
助教	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	5
合計	53	37	26	24	25	19	25	14	7	17	8	3	1	5	15	1	280

※実務家教員を含む。

### 高等学校・中学校

校長	教諭	契約	養護教諭	司書教諭	合計
1	52	3	1	1	58

### 職員

専任	嘱託	契約	合計
156	37	13	206

## Ⅳ事務組織図(平成29年3月31日現在)

学 園	経営企画室		
	スポーツ強化支援室		
	総務部	総務課 人事課	
	財務部		
	管財部		
	情報システム室		
	広報部	広報課 甲友課	
	学園振興募金室		
	ネットワークキャンパス東京事務所		
	監査部		
	大 学	学長室	
		教務部	
		学生部	
		キャリアセンター	
		図書館・サイバーライブラリ事務室	
		入試センター	
		教育学習支援センター事務室	
		法科大学院事務室	
		文学部事務室	
		理工学部・知能情報学部事務室	
経済・法・経営学部合同事務室			
西宮キャンパス事務室			
ポートアイランドキャンパス事務室			
国際言語文化センター事務室			
スポーツ・健康科学教育研究センター事務室			
共通教育センター事務室			
国際交流センター事務室			
教職教育センター事務室			
カウンセリングセンター・人間科学研究所事務室			
フロンティア研究推進機構事務室			
地域連携センター事務室			
高等学校・中学校	高等学校・中学校事務室		